

ひとめぐり

南三陸に戻って農を志す。新成人の挑戦。

おおぬま ほんのかさん

この春、南三陸では153人が新成人となる。宮城県農業大学校で農業を学ぶ大沼ほんのかさんもその一人。「この春卒業したら、南三陸で就農します」と生まれ育った町へのUターンを決意している。

ほんのかさんが小学校に入学するころ、母が始めたクレープの移動販売が町内で大人気だった。「お祭りなどで手伝いするうちに、カフェを開きたいという夢をもつようになりました」と話す。しかし、ほんのかさんが小学校6年生のとき、東日本大震災が町を襲い、すべてを失った。北海道で避難生活を送っていたが、震災から2年が経過するころ、一家は古里・歌津地区に戻り、父は養鶏を、母はクレープを再び焼き始めた。

そんな両親の姿を見たほんのかさんは「観光果樹園とカフェをやりたい」という思いを強くした。農業大学校では、栗栽培の研究を行い、成果も実感しているという。「クレープはもちろん、さまざまな加工品にできる栗は魅力的。南三陸に戻って本格的に取り組んでいきたい」と意気込む。現在は卒業論文の準備を行いながら、南三陸町で栗を栽培できる土地を探している。担い手不足、耕作放棄地など課題の多い農業。しかし「農業は楽しくて仕方ない」と笑顔で楽しむ新成人の姿に、大きな希望を感じずにはいられない。

HONOKA OONUMA



「来年からは農業をやりながら、震災前、母が行っていたクレープの移動販売も私が受け継いでやりたい！」と意気込むほんのかさん。

今月の Smile



長田 来輝くん (新井田)
平成30年4月27日生まれ

とびっきりの“らいきスマイル”は
家族みんなの宝物
これからもたくさん笑って
たくさん遊んで
ぐんぐん大きくなっていこうね！

混平・麻里奈より